

◆令和2年12月21日開催庁議◆

1. 市長挨拶

- 本年も終了しようとしているが、2月に新型コロナが発生後、それぞれ予定したイベントや行事などは延期や対策を施しながら実施をするなどで対応してきた。職員にあっては、市民に対し、しっかりとしたサービスが出来なかったことが悔やまれる一年でもあったが、やらなければいけない事業や取組みについては、おおかた出来たものと思っており、感謝申し上げます。
- この新型コロナウイルス感染症の影響はしばらく続く。年が明けても十分な対策を取りながら事業を進めていくこととなるので、宜しく願い申し上げます。
- 新型コロナウイルスの影響で、大きく経済状況も変わり、市の運営も大きく変わるなど福祉や教育、市民生活のほか企業運営等も変わらざるを得ない状況となった。その中から生まれてくる社会活動や経済活動の変化を見通しながら、来年は“ポストコロナ”の時代へ向け、職員から様々な提言ができるような工夫を企画振興部を中心に検討し、まちづくりの考え方や取組みの方法など市として方針を示し、総合戦略や総合計画に付随した形で実行性を高めた中で取組んでいくこととしたい。

2. 議事

(1) 令和2年仕事納めの会・令和3年仕事始めの会の開催について【総務部】～要点抜粋

◎資料に基づき、総務部長説明

- 令和2年の仕事納めの会を下記日程で開催することとし、リモートでの開催とするので自席にて視聴のこと。
日時：12月28日（月）17：15より
- 令和3年仕事始めの会についても、下記日程で開催し、リモートでの開催とするため視聴方法は同様とする。
日時：1月4日（月）8：45より

(2) 人事評価調整委員会の改組について【総務部】～要点抜粋

◎資料に基づき、総務部長説明

- 本年度の期末評価時より、人事評価調整委員会を改組し、従来の一部部長が参加する形を全部長・局・室長による構成に改組したい。
- 経緯については、人事評価制度の導入以来、副市長を中心とした人事評価調整委員会が部や課の目標設定、難易度・ウエイトの判定、評価点数の部間調整などの役割を担ってきたが、所管外の業務内容に精通していない委員による判断が難しく、例年実施しているアンケートでも委員会のあり方についての意見を見られたことから、改組とした。
- 全部長・局・室長全員が参加することで、調整委員会での発言を担保し公平性を確保したい。また部内調整の結果を尊重することで、より被評価者からの納得感が得られるこ

とにより、部内調整会議に一定程度の権限を持たせることとし、その上で調整委員会は全庁的に均衡が取れているか相互にチェックすることに重点を置く。

○部内での取組みでは、部内調整会議を開催し、被評価者の業務目標や期末評価達成度の評価を行う。

(3) 自主研修「地域活動体験研修」の研修者選考について【総務部】～要点抜粋

◎資料に基づき、総務部長説明

○J Cを研修先としている地域活動体験研修について、これまで公募及び声掛けにより研修者を決定していたが、継続的に研修者を選出する方法を2年間にわたり「恵庭市人材育成プログラム検討委員会」で検討してきた結果、次のとおり取り扱うこととしたので、ご協力願う。

- ・現状は公募し、期日までに希望者がいない場合は、個別に声掛けして研修者の掘り起こしをしている状況で、この研修は、「自主研修」として位置づけられており、自発的な参加が大前提で継続的に研修者を出す仕組みづくりを模索してきた。
- ・今後の研修者の選考方法については、希望者がいない場合は、グループ分けに記載しているグループ順に、研修者を選考することとしたい。

○今後の取組みとして、対象職員に研修に興味を持ってもらえるよう積極的な情報発信に努めて参りたい。

(4) 販売員の執務スペース内出入禁止について（依頼）【総務部】～要点抜粋

◎資料に基づき、総務部長説明

○令和3年から、個人情報の保護や新型コロナウイルス感染症の飛沫感染防止のため、執務スペース内の受け渡しを禁止するため、窓口での受け渡しを行うよう周知のこと。また、この取り決めについては全公共施設とする。

(5) 新型コロナウイルス感染症対応 地方創生臨時交付金について【企画振興部】～要点抜粋

◎資料に基づき、企画振興部長（企画課長）説明

○4月30日と6月12日にそれぞれ成立した国の第1次補正予算と第2次補正予算の交付金の交付決定における恵庭市の配分額につきましては、地方単独分は、確定配分額として9億3800万円、国の補助金の地方負担分の見込み（以後「補助裏」という。）として1億100万円、合わせて10億3900万円を見込んでいる。

○12月15日に閣議決定された国の第3次補正予算の概要に示されている、1兆5千億円の交付金では、各都道府県や市町村への配分額は、補正予算が成立するまで発表されないが、過去の市町村への配分方法につきましては、まだ何も情報が無いが、「第1

次」と「第2次」の地方単独分の平均配分率により試算すると、地方単独分で、4億6900万円、補助裏分で6200万円としており、その結果、その下の合計では、地方単独分で14億700万円、補助裏分で1億8600万円、合わせて15億9300万円を見込んでいる。

○現時点における新型コロナ対策事業費を予算ベースでは、交付金では既に、14億7300万円は、事業に充当しておりますので、交付金見込み額15億9300万円との差額、1億2000万円程度が、今後、使用できる交付金として見込まれる。

○時期について、現時点では、第3次補正予算は、何か分かり次第、随時報告するが、各所管では事前に対象事業をご検討いただきたい。

(副市長) 国の補正予算の決定の動向に伴い、市においても補正予算を組む可能性が高いことから、臨時議会の開催についても、年明けにも日程等を調整していくこととなる。

(市長) 今後も感染症対策として、経済対策や医療・介護等々について新たな対策をしなければならず、その財源として交付金を活用しながら進めていくこととなるので、行うべき事業について各部で考えておいていただきたい。

3. その他

【企画振興部長】

◎ 「子ども未来議会」の未来提言書について

- ・現在策定中の第5期恵庭市総合計画後期基本計画の中で公表することとしており、頂いた提言内容について、各部に検討の依頼を行うこととしており対応願う。また、令和3年に予算付けが必要な場合、予算編成の中で検討していきたい。

(市長)

未来提言書にあたっては、各中学校で全校アンケートを行うなど、総意的な意見とも感じられ、生かせるものについては生かしていくようお願いする。

(副市長)

後期基本計画について、各部において、今一度整合性が取れているか確認を願う。

◆令和2年12月28日開催庁議◆

1. 市長挨拶

○今年最後の庁議となるが、改めて今年の事業等を振り返り、どんな1年であったか考えてほしい。今年には新型コロナウイルス感染症の対応に始まり、対応に終わる1年であった。今年の2月の終わりに北海道独自の緊急事態宣言があり、夏ごろには状況が改善すると思われていたが、秋になり、感染者数が増え、一時も心が休まることがなかった。医療や福祉、子育て、教育、経済、施設運営、イベント、各種工事など様々な場面に影響が出た。経験したことのない状況下で対応にあたった各部署に感謝申し上げる。

- 今年度も残り3か月となったが、引続き感染症対策などに注意しながら事業を執行していただきたい。今年は新型コロナウイルス感染症によりイベント等中止になった事業もあるが、概ね順調に推移している。現在の異常事態の中で、市民が市に対してどう考えているのかを捉え、市民の声を反映しながら事務にあたっていただきたい。
- 明日より6日間の休暇に入るが、職員においては事故や違反などがないよう留意するとともに、新型コロナウイルス感染症の集中対策期間中であることから出来るだけ外出等を控えるようお願いしたい。

2. 議事

(1) 年未年始における職員の服務規律の確保について【総務部】～要点抜粋

◎資料に基づき、総務部長説明

- 「服務規律の確保」について、既に新着情報に掲載しているが年未年始を迎えるに当たり、一層の服務規律の徹底を図るとともに、勤務時間内外を問わず、職員の綱紀が保持されるよう職員へしっかり伝達願いたい。
- 年未年始は人が集まり、飲食を伴う会食が増加する時期であるが、北海道では新型コロナウイルス感染症の集中対策期間が継続されていることから、年未年始の過ごし方について感染リスクを回避する行動を徹底すること。
- 体調のすぐれない際は運転を控え、飲酒運転や酒気帯び運転を絶対にしないよう留意すること。
- 年未年始における災害時等の緊急連絡に配慮し、連絡網がスムーズに機能するように、連絡体制の再確認を行うこと。

3. その他

【副市長】

◎令和3年度の組織機構について

- ・例年、組織機構の案をこの時期に示していたが、現在緑化フェア準備室の事務局の編成が難航しており、年明け2回目の庁議にて案を示すことができるようヒアリング等を実施している。